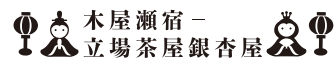




長崎街道沿い文化施設4館連携イベント

長崎街道 ひなまつり



3月24日(日)まで開催 ※立場茶屋銀杏屋は3月10日(日)まで

毎年開催しております「長崎街道ひなまつり」を今年も開催いたします。毎回多くのお客様に足を運んでいただき、お陰様で市内でも有数のひなまつりイベントに成長しました。

開催館といたしましては、①長崎街道木屋瀬宿記念館 ②旧高崎家住宅(伊馬春部生家) ③江戸あ

かりの民藝館 ④立場茶屋銀杏屋 があります。それぞれの施設で醸し出す雰囲気や展示物が少しずつ違いますので、お時間があれば全館を回っていただくと、より「長崎街道ひなまつり」を楽しめるのではないのでしょうか。ここでは展示物を見る際のちょっとしたコツや豆知識などを紹介したいと思います。

(長崎街道木屋瀬宿記念館 加藤 悠)



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 運営協議会 広報部
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149 FAX 093-617-4949

① 長崎街道木屋瀬宿記念館

主に「ひなまつり」の歴史や、多様なひな人形の種類についての解説を行っています。全館を回る予定の方はここに最初に来館すると、ひなまつりについての事前知識を付けられるのでオススメです。

※入館料が必要です。

② 旧高崎家住宅(伊馬春部生家)

展示されるひな人形の数はおよそ600体。文化財である建物の中に数多くのひな人形が飾られ、どなたが行っても楽しめます。飾られているひな人形の中には江戸時代に制作されたものもあるので、ぜひ探してみてください。

③ 江戸あかりの民藝館

館長の佐藤氏によって収集されたひな道具の展示を行っています。実際の道具をつくる職人によって手掛けられたひな道具は一見の価値があります。平日休館のため、土日祝にお越しください。

④ 立場茶屋銀杏屋

段飾りとさげもんが、文化財である建物と調和して非常に趣深い展示となっています。ここには独自に制作された、ちいさな人形が竹の中にある「竹びな」、等身大の内裏雛である「大名びな」など他では見られない飾りが見学できます。

木屋瀬宿記念館収蔵品紹介

江戸時代後期(天保期)に制作されたこのひな人形は、主に古今雛と呼ばれます。朝廷や公家社会、または武家社会などで着用されてきた「束帯(男雛)」「十二単(女雛)」などの「有識装束」と呼ばれる衣装をまとっていることが特徴ですが、実際に流通する人形の中には正装にアレンジを加えて豪華絢爛に仕上げたものも存在します。目には水晶やガラス、華やかな衣装に写実的な顔つきで町民のみならず、大名家にも人気を博しました。現在主流の雛人形も、この「天保雛・古今雛」がルーツとされています。



「内裏雛(天保雛・古今雛)」

宿場町木屋瀬。心に郷土が染みしてくる。歴史とふれあう記念館。

筑前木屋瀬 第19回

今昔歳事記

紅屋泰助氏(故柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳事記」の第19回目です。今回は、「ひろば北九州」平成23年1月号の行事・風物について、後編として紹介させていただきます。

成人の日恒例行事 白熱の木屋瀬いろは歌留多大会

さて次に、本誌に毎回掲載して居ります故・岩井屋不彫さん考案の「木屋瀬いろは歌留多」の大会をご紹介します。大会は毎回、成人の日(平成23年は1月10日)に開いて居ります。行事の主催者は、木屋瀬の歴史と文化を活かした「まちづくり」の拠点施設である北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館の地元運営協議会でございます。地元運営協議会の中の「こやのせ座」運営部会の面々が、「こやのせ座」の正月恒例行事に相応しい企画として立案しました。大会を開催する為、不彫さんの「木

屋瀬いろは歌留多」を初めて実用歌留多として制作しました。以来此の歌留多によって、多くの方々が木屋瀬の歴史や文化に接し、住民も自ら学ぶことによって郷土愛を培っております。未来を拓く「まちづくり」につながる信じ、取り組んで居ります。大会は回を重ねる毎に盛大となり、今年(平成23年)で第10回を迎えます。

本大会は問答無用の木屋瀬ルールに則り、「小学生の部」と中学生を含む「一般の部」の二部構成で執り行われます。参加者は毎回、地元及び北九州市内外から総勢200人以上が詰め掛け、白熱した試合が繰り広げられて居ります。

又、参加者には賞品・参加賞の他「こやのせ座」運営部会のボランティアが準備したうどん・ぜんざいを盛大に振る舞います。「こやのせ座」恒例の正月行事は大いに賑わって居りますが、今後も益々の発展が期待される処でございます。此の様な大会の隆盛と発展性は岩井屋不彫さんの労作によるものであり、心より敬意と謝意を表す次第でございます。

いろはかるたのご紹介

なが さき ぶ ぎょう おん とま な 長崎奉行の御泊り

長崎奉行は老中の直轄下にあり、長崎市中の行政を監督し、中国や阿蘭陀との貿易を司り、諸外国の動静を探索し、九州の諸大名を指揮して外寇に備えるという要職でございました。木屋瀬宿の本陣に御泊りの際は、毎度の食事に三の膳までついたと伝えられます。さぞ接待が大変だったことでしょう。



尚、今年(平成23年)は大会に併せて北九州鳥風愛好会のご協力により「凧の展示」および「凧の制作と凧上げ大会」を現在企画中でございます。ご期待の程宜しくお願い申し上げます。

つづく(記念館)



冬の風物詩が3年ぶりに開催されました

木屋瀬 3年ぶりに開催! いろは歌留多大会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を控えておりましたが、今年度は実に3年振りに開催できる運びとなりました。参加者は小学生以下34名、一般19名と例年通りの参加人数で、皆白熱した戦いをみせました。今年度参加できなかった方や参加を迷われた方は、来年度の参加を何卒お待ちしております。

シリーズ 文化の薫る町木屋瀬

第十回 伊馬春部生家

■木屋瀬宿の「歌人伊馬春部生家復元」

平成三年十一月三日、木屋瀬小学校の講堂は満杯の人で熱気にあふれていました。そのころ日に日に活気がなくなっていました。時が止まったような、木屋瀬町を心配していた住民が何か活路を求めたいと方向性を求めていた時に企画されたのが、街づくりのシンポジウムです。

講師は、当時の熊本大学の北野教授、福岡大学の竹野教授、共立大学の尾道教授、郷土史家の能美先生、米津先生等です。木屋瀬の将来について熱く語って頂いた。意外だったのは、わたしたちが普段見慣れた、瓦葺の連続した木屋瀬の町並みに大変興味を抱かれ、又、歌人であり放送作家である伊馬春部（高崎英雄）先生の生家（古民家）についても大変関心を持たれ、シンポジウムで木屋瀬の街づくり方向性として、歴史を活かした「街並みの保存と創造の街づくり」を提案されました。



復元された伊馬春部生家

その後、木屋瀬では、毎夜、街づくり塾が開催され勉強会が開かれました。一流の講師の先生方と夜遅くまで住民が談

論しました。又、街並みの景観整備と合わせ、伊馬春部先生についても、業績・人柄について町内の人達が勉強会を開催し先生についても深く考察しました。そこで、伊馬春部生家保存についても、町内だけでなく、広く北九州市民の人に知っていただくことが必要との結論を得ました。

■甞れ長崎街道木屋瀬宿の豪商 文豪伊馬春部生家

平成七年十一月七日、北九州プリンスホテルで、昨年亡くなられた女優の中村メイコさんを伊馬春部先生と関連があったNHKの縁で講演を依頼し、宿場町フォーラムを開催しました。NHKの広報の関連もあり、会場は大盛況で大広間満杯の盛況でした。生家復元保存運動も盛り上がり大変なアピールが出来たと思っております。

その後も、生家保存復元運動は順調に推移し、平成九年三月見事生家の復元が再現し華やかに開館しました。幸い、建物の二階の梁に残っていた、墨書名から天保六年（1835）の建築で江戸時代末期を代表する貴重な宿場建築であることが証明され文化財にも指定されたことも幸いしました。建設以前から、管理、運営は地元のかなボランティア団体が引き受けるとの約束から、施設の保全・管理・来訪者のガイド等を現在も宿場木屋瀬街づくりの会が対応し、開館時の賑わいを今に保ち居心地の良さが



生家の庭に建立された歌碑

来訪者を大変喜ばせています。又、平成二十年九月から開催された、市立文学館における「伊馬春部生誕100年記念展」の開催も、一躍北九州市民に伊馬春部という作家を世に知らしめる大きな機会に「やさしい昭和の時間」発売も、市民の関心を大いに深めました。

■生家の庭に歌碑建立

平成二十年十二月、宿場木屋瀬街づくりの会（伊馬春部生家運営を担当するボランティア団体）が、生家の庭に生誕百年と文化財指定十五周年を記念して、伊馬春部先生の歌碑を建立しました。詩は、昭和五十一年宮中歌会始で、召人として詠進された歌「坂」です。歌碑の建立も、文化の薫る町として、地域住民の誇りでもあります。

現在、伊馬春部生家は木屋瀬宿を代表する古民家として一般公開され、江戸期の貴重な建物として、市内外から見学者が目見ようと絶えることなく来訪されています。宿場木屋瀬街づくりの会前会長 野口靖彦

成人式はすっ裸

わしらの若い頃は、成人式というものは特別なかつた。そして挙げるとすれば、徴兵検査、やろうか。兵隊になるための検査なんやが、わしらにとつては、大人の仲間入りをする大切な儀式でもあった。

今は、女の子がきれいな晴れ着を着て行きよるようやが、昔は、男が羽織・袴を新調してもううて、パリッとした格好で行きよった。

検査は直方でやりよったようやに覚えとる。ところが、検査場に入ると「服を脱げ」と言われる。そして「褌を取れ」。すっ裸にされて頭の上から足の先、尻の穴まで調べられる。そやけど不思議と恥ずかしさはなかつたね。これで大人になれるという緊張感があつたからやろうか。

帰りにみんなで記念写真



わたしの昔話

木屋瀬は連帯意識の強い所で、わしらもこの日あつたことをすべて後輩に話してやる。わしらから先輩たちから教えてもらうたのと同じように。



成人式での記念写真

本町 柴田由美子

「柴田豊廣遺稿集」より

令和5年12月9日（土）・10日（日）に、7名の児童による令和5年度「子供魚びす頭」が執り行われました。この行事は、木屋瀬に江戸時代から伝わる由緒あるもので、男児が数え年で11歳になると頭（かしら）と呼ばれ、地域の若衆（大人）の仲間入りをする儀式として始まりました。現在では小学校4年生を頭とし、毎年執り行われております。

令和5年度 子供魚びす頭

世話人代表 船川 大十



す。また何より今回同じ学年という縁もあり、力を合わせて共に取り組んだ仲間との絆もより一層深くなったのではないのでしょうか。振り返れば私も子供の頃、この行事に参加させていただきました。昨今の少子化で参加人数が年々減少していく中、例年は青年会という立場でしたが今回は加勢人ではなく世話人としてこの行事に関わらせていただいで、木屋瀬町内の皆様の地域を想う心や、この地域で暮らす子供たちの健やかな成長を願う心が、昔から変わることなく現在も引き継がれていることこの素晴らしさを再認識する良い機会となりました。

またこの行事に参加する事で、未来の木屋瀬地域を担ってくれる可能性が子供たちの中に芽生えているという事も改めて実感する事ができ、大変嬉しく思いました。

この行事を通して子供たちの頼もしい成長が木屋瀬地域の未来へと続きます様に、今後も微力ながらお手伝いさせていただきます。

結びに、この行事の準備から本番までご協力いただきました氏子総代会・木屋瀬青年会、各団体の皆様、柳勝二氏をはじめ木屋瀬町内の皆様方、また温かいご芳志をくださいました多勢の皆様方に令和5年度子供魚びす頭の関係者を代表いたしまして、心より厚く御礼を申し上げます。

2024年 春の企画展 「仏さまに会う木屋瀬」 4月27日(土)~6月23日(日)



昨年度、北九州市立美術館市民ギャラリーの展示にて好評を博した絵手紙作家・真武香織とその生徒による、さまざまな「仏」をモチーフに制作した絵手紙を2024年春に展示します。また、木屋瀬宿内に存在する四つの寺の仏像に関する作品も、この企画展に合わせて制作していただきました。この貴重な機会にぜひ記念館へ足をお運びください。